

# 神ともに いまして

大学宗教主任 左近 豊



マタイによる福音書 第28章20節

私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

## 卒業される皆さんへ

わたしが学生だった頃は、NetflixもAmazon Primeもありませんでした。よく池袋駅の場末の映画館に行きました。そこでしかやっていないような、ちょっと前に封切られたロードショー落ちの映画や、一時代前のヨーロッパの作品などを2本抱き合わせのセット料金で、しかも学生割引で、閑散とした客席で、スクリーンに映し出される切り取られた世界に浸り、漂っていました。

見たい作品とセットになっていたので成り行きで見ることになったのに、そちらの方が心に刺さったという作品も少なくありませんでした。報われることなくハッピーエンドで終わらず、理不尽さに沈んだまま迎えるエンドロールも、やり場のない悲しみを抱えながら、果てしない青空の下に一面に光を浴びて風になびく向日葵の群生が脳裏に焼き付けられるものもありました。見終わって、よくわからないまま「なんだったんだ?」と「?」マークを頭に乘せたような感じで映画館を後にしたのに、何年も経ってから「ハッと」して、もう一度、レンタルで借りて心震えるものもありました。後になって大輪の花が咲く種が、心のどこかに蒔かれていたことに気づかされました。

青山学院でも、皆さんの中に蒔かれた、いろいろな種があるのだろうと思います。今は硬い殻に包まれていたとしても、きっとこれから思わぬ時に思わぬ仕方で、辿りゆく歩みの中で、彩りをはじき出させ、味わいを醸しださせることでしょう。成り行きでの出会いも、「?」マークの今も、すべては魂の糧とされることを確信しています。

巣立ちゆく皆さんに私が大事に思っている祈りを送ります。これはかつて留学していた頃に通っていた教会で、毎週礼拝の最後に牧師が祈ってくれた祈りでした。

Live simply	つつましく生きなさい
Love generously	惜しみなく愛しなさい
Serve faithfully,	心から仕えなさい
Speak truthfully	誠をもって語りなさい
Pray daily	祈りを絶やすことなく
Leave everything else to God	あとはすべて神にお委ねしなさい
Amen	アーメン

最後のLeave everything else to God「あとはすべて神に委ねて」というところが励ましでした。目に見える成果に心躍らせる日ばかりではないですし、喜びよりも心に重くのしかかる破れに沈んで眠れないまま、時間だけ過ぎて迎える朝もありました。それでも刻む1日1日の「?」も、いつか伏線回収されるようにして神様の時の中に位置付けられ、意味付けられて分かる時が来ることを信じて歩いてゆけた言葉でした。もう一つ私がかづけられる讃美歌があります。

「かみともにいまして、ゆくみちを守り、天のみ糧もて、力を与えませ。  
また会う日まで、神の守り、汝が身を離れざれ。荒れ野をゆく時も、  
あらし吹くときも、ゆくてを示して、たえず導きませ。御門に入る日まで、  
いつくしみひろき、み翼のかげに、絶えずはぐくみませ。  
また会う日まで、神の守り、汝が身を離れざれ」(讃美歌405番)

卒業おめでとうございます!